

NY 市場レポート（前日 21 時 00 分～午前 5 時 30 分まで）

ダウ平均は 4 営業日続落、ナスダックは 5 営業日ぶりに反発

米株式市場では、中東情勢の緊迫化を背景に主要株価指数は序盤から軟調な動きとなった。しかし、その後は米長期金利が低下に転じたことから買い戻しが優勢となり、軒並みプラス圏を回復する場面もあった。ただ、FRB の利上げ長期化に対する懸念が根強いことや、米企業の決算発表の本格化を控えたポジション調整などもあり、引けにかけて再び軟調な動きとなり、マイナス圏まで下落した。その中で、金利動向に敏感なナスダックはプラス圏を維持して終了した。ダウ平均株価は、序盤に前週末比 235 ドル安まで下落したものの、その後は買いが優勢となり、一時 107 ドル高まで上昇した。終盤にかけて再び売りが優勢となり、190.87 ドル安（-0.58%）で終了した。一方、ナスダックは 34.52 ポイント高（+0.27%）で終了した。



セクター別変動率(ダウ平均)			個別の変動率(ダウ平均銘柄)		
	セクター	変動率		銘柄	変動率
1	エネルギー	-3.69%	1	シェブロン	-3.69%
2	素材	-1.53%	2	インテル	-3.06%
3	ヘルスケア	-1.14%	3	アムジェン	-2.06%
4	通信サービス	-1.08%	4	DOW	-1.53%
5	金融	-0.86%	5	トラベラーズ	-1.49%

データを基に SBILM が作成

ドルは主要通貨に対して軟調な動き

NY 市場では、米国の主要な経済指標の発表がなく新規材料に乏しい中、ドル/円は欧州時間から 149.90 台で上値の重い動きが続いた流れを引き継ぎ、序盤から 149.90 台で小動きの展開となった。その後、欧州時間に一時 5.02% 台と、2007 年 7 月以来、約 16 年 3 ヶ月ぶりの高水準を付けた米 10 年債利回りが低下に転じ、一時 4.827% まで低下したことを受けて、ドル/円も序盤の高値 149.96 から 149.56 まで下落した。一方、欧州通貨や資源国通貨は対ドルで上昇したことから、対円でも堅調な動きとなった。特に、ユーロ/円は一時 159.78 まで上昇し、2008 年 8 月以来の高値を付けた。



出所：総合分析チャート

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。